

●京の七夕が6月から8月まで7商店街へ10回の笹竹185本の運び込みと提供 無事に完了 この作業への協力者は合計延べ41名の奮闘がありました。

6月8日に京都商工会議所から京の七夕の笹竹の提供についての相談連絡があり、早速27日には納入いただきたいとのことでした。里山の会としては事務局会議で重々の検討行いました。3年前までは提供をしてきたので久しぶりに提供しようと決まりました。里山の会が受け持つ納品先の商店街は地元に近い伏見の淀や丹波橋や深草に加えて、京都市内の中心部の三条や新京極など7商店街と決まりました。納品期間は6月7月8月の3か月に渡るものでした。また道路通行時間の制限や受取人の都合があつて、午前9時を指定されていました。市内での納入先は指示されていますが、一度も訪ねたことがない場所なので、正確に指定時間に到着できるか不安で、少しゆとりを見て午前6時30分に集合して竹の切り出しを行いました。竹の伐採場所も納品数量に関係して調整しなければなりません。納品が連日早朝から大変でした。そして加えて年間計画に基づくイベントや会議は中止や延期はできませんので、それぞれ都合を調整することが大変でした。例年の魚とりも7回開催しながらの取組でしたので、完成できるのか懸念されましたが、やり遂げようという熱い気持ちが集まって8月14日の新京極商店街の回収作業で、見事に完了しました。振り返ってみますと随分と無謀な取り組みだったなあという感じがします。よくやりきれたと自画自賛です。皆さんご苦労様でした。

●平成29年度京都府地域力再生プロジェクト交付金申請(豪額300万事業) 間もなく決定通知の予定事業の申請内容は次の通りです。①水辺の子どもたちの活動発表と体験を通じて交流を深める②夜の生き物調査での小さな生き物をさがす機会を提供する③竹蛇籠の設置を通じて技術を伝承し、身近な材料で身近な温もりのある川づくり体験を行う④教育棟の展示場を充実し、恒常的に里山環境を学習できる資料展示を実現する⑤木津川はどんな川の展示を沿川自治体で展示説明会を開催し川への理解を深め、生き物やごみ問題への理解を深めるなどの5事業の実施を申請しました。審議の各委員から疑問や質問がなく委員会を無事に通過したとお聞きしました。いよいよ5事業のうちの最大の事業である「子供の水辺の交流会」が8月19日に開催されます。出席予定者は30名を超えるとの見通しです。「さくらであい館」がオープンして里山の会や木津川グループレンジャーとその協力者の皆さんとの取組です。助成金が大きな比重を占めますので、問い合わせた結果以上のような報告でしたので、何とか計画通りに実行できる見通しで一安心です。

●竹蛇籠設置の見学者が岡山県から来訪 23日(水)午後1時 一昨年に京都大学の竹門康弘准教授を中心に諸団体が力を合わせて、木津川15.2kmの両岸に6基の竹蛇籠の設置を行いました。製作した竹蛇籠は15本で、一基は柵式のものでした。この設置目的は滞筋の固定化による魚の棲み処の消失から住处作りと、地元の皆さんとそして川にある材料を使って古来工法の伝承などを目的に180人の皆さんの力で完成できました。その後効果は大きく表れ、砂洲の実現や反転流の誕生など目に見える成果をあげています。この2年間数回の冠水があつて流失するのではないかと心配されましたが、形態の変化が発生していますが、その機能はしっかり発揮されているようです。今回岡山県から竹蛇籠の製作と設置に興味を持っておられる皆さんが、京田辺の飯岡(木津川15.2km)に設置してある竹蛇籠の現場を視察に来られるとの連絡が入りました。現場は夏草が激しく生い茂り通路も繁茂し、遠路はるばる視察者を迎えるには草刈りなどの整備も行わなければなりません。そして2時間もの長丁場を日差しが照り付ける屋外での説明や見学行動は少しつらいと思います。暑さしのぎのテントを用意するなどで歓迎が必要でしょう。設置以来初の見学者にいい印象を持って帰っていただけるようにと思っています。

●講師が決定 第21回里山講演会 これまでの講演会は日ごろの活動で疑問に思っている課題や社会で大きな話題になっている演題を中心に講師をお願いしてきました。そして教えていただいたお話を活動に生かし実践しようとしてきました。この積み重ねが20年間の継続する大きな知的力(元気の源)となってきました。今回の21回目の開催にあたっては、琵琶湖での研究に長に深くかかわってこられた西野教授(びわこ成蹊スポーツ大学教授)から夏原グラントの交付金審査委員の経験を加えて「里山活動に期待するものと」

題してお話しをお願いしています。引き続き「イタセンパラのこれから」と題したお話は淀川のワンドでのイタセンパラの復活が話題になっているとき木津川での復活を目指すには何が必要かなどについてお聞かせいただきます。まさにいま木津川の課題にぴったりの演題です。多くの皆さんのご参加をお願いします。

●京都府こどもの水辺 30 人の参加が決まる スタッフ募集 19 日 9 時 八幡市「さくらのであい館」
台風 5 号の迷走やその後の豪雨が各地を水災害の危険を大きくする中で、なんとなく淀川は安全という気がします。この春完成した三川合流の塔は景色にぴったりしませんね。しかしこの施設が賑わって、地域のシンボルとなり、川ガキ育成の場となることを願っています。今回施設の特徴の川と水辺を活用して「京都子どもの水辺」と題して、自然大好き体験大好きな育成の初回を開催します。将来を見込んでしっかり成功させたいものです。多くの会員さんのご協力をお願いいたします。10 時開始で 16 時終了のプログラムです。素晴らしい実績をお持ちのコーチ指導者をご協力をいただきます。里山の会顧問の桜谷先生には昆虫観察のご指導をいただくことになっています。こぞってご参加ください

●第 6 回「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」 集合は山城大橋西詰 橋下の駐車場 20 日午前 9 時
木津川での取り組みは合計 7 回と計画しましたが、いよいよ残すところ 2 回です。これまで長年取り組んできましたが、20 日以後の開催では今年の取り組みがこの時期最多の参加予定人数です。相変わらず木津川の増水や渇水が心配されますが、何とか予定通り開催できそうです。厳しい条件の下での開催ですので、安全管理路と無事故のためのスタッフとしてのご協力をお願いします。また最終回第 7 回(最終回)「親子で遊ぼう学ぼう魚とり」には、まだ余裕があります 大至急往復はがきで申し込んでください

●会誌 43 号原稿募集が始まる 仲間の広場にこぞって応募ください 8 月 20 日から次号 43 号原稿募集を始めます。コーナー「仲間の広場」は会員各位が登場いただけるコーナーとして設定され会員交流のする会誌発行の目的実現の場であります。近年このコーナーへの寄稿が徐々に少なくなってきました。会員各位の暮らしの変化と自然の変化などに漫然となるなど新鮮な感覚が弱くなって、多忙にまぎれてせわしくくらしているからではないでしょうか。高齢化に負けないで投げやりにならず、少し以前の活発に動き回っていた感覚を呼び戻し、一筆をお願いいたします。会誌発行ごとにページ数の減少を残念に思っています。終戦後 72 年目の夏を迎え再び戦争は嫌、起こしてはならないと身を持って体験された皆様の決意、そして親から戦争体験のお話を聞いた皆さん、いま平和ボケしないで一言ご意見をお寄せください。

●大聖牛の設置の取組みの概要について 8 月 5 日(火)に竹門先生と淀川河川事務所の稲垣課長によって、大聖牛の設置場所について決定いただきました。9 月 30 日 10 月 1 日の二日間は竹蛇籠用の竹の切り出し 280 本を行います。そして 4 分割に割って材料資材の準備を進めます。10 月 7・8 日に蛇籠を編み上げます。総数は 1 基に 18 本の蛇籠が必要となります。3 基を設置すると 54 本が最低必要数量です。前回は 2 日間かかって 15 本が精一杯でした。この実績からすると前回の能率を 2 倍にしてやっと間に合わせられるのです。今までのやり方では、完成にこぎつけるのには非常に困難と思われます。

そこで蛇籠の編み方を「有田勉新理事」に習得いただいて、有田さんの下で事務局会議参加者が初参加者を指導できる技術力をもって 10 月 7・8 日に挑まなければと提案がありました。有田さんにはすでにモデルを使って解説指導できるように努力と勉強をお願いしています。8 月 22 日(火)午前 10 時から、事前学習会を行うことに決めました。ぜひこの折に竹蛇籠の編み方にご参加ください。私達里山の会の事務局メンバーは本気で技術習得に挑むつもりです。

皆さん!! この年齢で一回の学習でマスターすることは、とても無理だと思います。さらに 2 回・3 回と経験を重ねお互いに相互刺激を受けながら頑張ってみませんか。軍手としっかりした足元を確保してご参加ください。能率をもとめるものではありません。自分のペースでじっくり学びあいましょう。ここで得た知識と技術は大物づくりに生かす以外にも机上での小物づくりにきっと生かすことができます。ご参加をお待ちしています。

竹門先生との次回の打合せを 8 月 26 日午後 1 時から竹蛇籠設置場所(木津川左岸 15.2 km)で行います。